

「救命の絆」世界一のまちをめざして邁進

—福知山市消防本部—

福知山市は、京都府の北西部、由良川が貫流する福知山盆地の中央、丹波・丹後・但馬により形成される「三たん地域」の中央部に位置し、京都市・大阪市及び神戸市から70km前後のほぼ等距離にあって、JR山陰本線・福知山線及び北近畿タンゴ鉄道（KTR）宮福線並びに舞鶴若狭自動車道、国道9号・175号・176号・426号・429号など広域幹線交通網の結節点となっている。京阪神と山陰・丹波地方を結ぶ玄関口としての立地条件にある。平成18年1月1日には、三和町、夜久野町及び大江町と合併し、新しい「福知山市」としてスタートをした。

福知山市消防本部は、平成24年5月に市の中心部に整備された、福知山市消防防災センターに消防本部・消防署・消防団本部機能を移動、併せて高機能消防指令システムを更新し、運用を開始した。管轄総面積は552.57km²、海拔の最高は839.17m、最低は7.11mで、管轄人口は8万0,760人（平成26年4月1日現在）となっている。1本部1消防署2分署で、管内の約8万1千人の生命、身体、財産を職員123名で守る。消防職員一人あたりの割合は658.81人となっている。

平成25年の火災件数は39件（前年比5件の減）、救急出動件数は3,614件（前年比69件の増）、救助活動件数は38件（前年比10件の減）、高速道路救急件数は6

件（前年比1件の減）となっている。

今回、平成25年8月15日(木)19時28分頃、花火大会開催中に露店の発電機に使用していたガソリンを原因とする火災により、死者3名、負傷者56名を出した「福知山市花火大会露店火災事故」の後、再発防止に務める福知山市消防本部を訪ね、火災後の取組やその他の重点施策について横山泰昭消防長、芦田修司次長並びに幹部の方々からお話を聞いた。



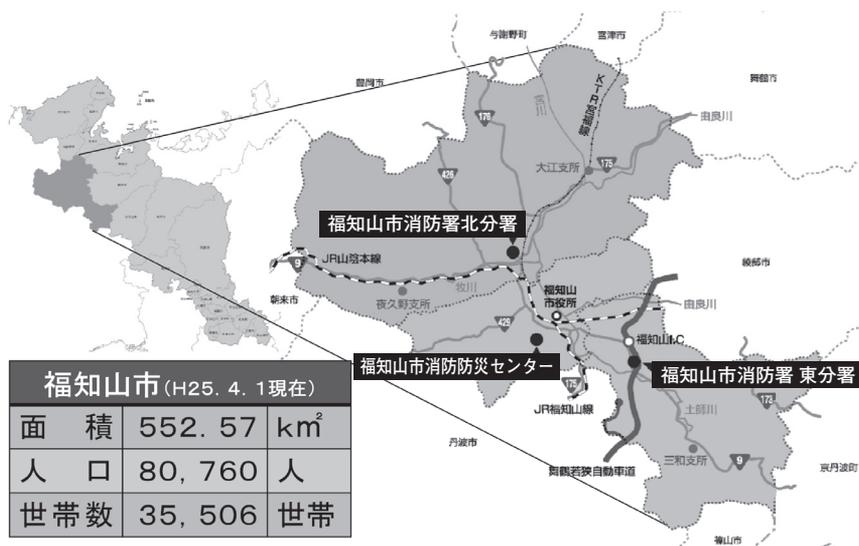
横山 泰昭
福知山市消防本部消防長

福知山市花火大会火災発生を受けて

本誌 福知山市花火大会火災当日の消防活動についてお聞かせください。

横山泰昭福知山市消防本部消防長 最初に、この火災で亡くなられた3名の方のご冥福をお祈りするとともに、治療を継続されている方々の一日も早い回復をお祈りいたします。

花火大会に伴う警備体制は、消防本部・消防長以下100名（日勤者、当務員、非番員、公休者）、消防団・団長以下26名、合計126名を動員し、17時から花火大会終了まで警備を行うというものでした。消防本部、消防署、東分署、北分署には、通常体制に増強を図った51名を配置しました。現地での警備体制は、人員75名（消防本部49名、消防団26名）、車両11台（救急車2台、ポンプ車1台、タンク車1台、市大型バス2台、消防団積載車2台、その他3台）で、由良川・音無瀬橋を挟んで同橋西詰に現地警備本



部、音無瀬橋東詰及び由良川左・右岸河川敷に各警備拠点を配置し、さらに市役所（会場まで0.8km）に集団救急対応のため、市所有の大型バス2台を待機させ有事に備えました。

本誌 初めての集団救急事故対応ということになるのでしょうか。

芦田修司次長 火災を起因とする集団救急事案は初めてですが、平成3年6月に重軽傷者300人強を出したJR福知山線「岡踏切」列車事故を経験しています。花火大会の消防警備計画は、JR福知山線事故に加え、平成元年8月の神奈川県横浜市山下公園花火大会爆発事故、平成13年7月の明石花火大会歩道橋事故の教訓を参考に立案しました。今回の火災では主に会場付近に多数の部隊を配置していたこと、救急救命士（8名）を待機させていたこと、消防職員が運転を担当する市の公用大型バス2台を市役所に待機させていたことが功を奏しました。困難ではありましたが結果として、消火・誘導活動→傷病者のトリアージ→傷病者の病院搬送までをスムーズに連動させることができ、火災発生から16分後には医療機関への搬送を開始しました。

本誌 原因の特定ができないまま消防活動を開始されたわけですが、二次災害の危険性についてはどうお考えでしたか。

鈴木秀三警防課長 火災現場が警備本部に近かったため、直ちに警備本部職員（救命士含む）と警備中の隊員を出動させ、傷病者の救護を最優先に活動を行い、河川敷に待機していた消防団が露店の消火活動にあたりました。二次災害等の安全管理については、警察や市職員、実行委員の関係者が中心となって火災現場付近の人員整理や避難誘導を実施したほか、最先着した消防隊が火災現場のガスボンベのバルブを閉めて周囲



前列左から塩見義博福知山消防署長、横山泰昭消防長、芦田修司次長。後列左から鈴木秀三警防課長、塩見雅邦通信指令室長、津田喜代志予防課長。

の安全を確保しました。その後、雑踏の中で負傷者の取り残しがないように傷病者検索を行いました。

塩見義博福知山消防署長 特に一番直近にいた消防団の積載車がすぐに放水活動に取りかかれたのが非常に大きかったですね。火災を約10分で鎮圧できたのは二次災害を誘発しなかった一番の要因だと思います。そのほか、お客さんたちも協力して氷を持ってきてくれたり、旅館の一部を提供してくれたりしました。

本誌 今回の事案で一番深刻だった点についてお聞かせください。

鈴木警防課長 夜間で約11万人という雑踏の中での消火活動、多数傷病者の搬送、トリアージポストの確保及び緊急車両の誘導、また、局所災害といえども多数の見物客がいる中に傷病者が点在していましたので、傷病者数や状態把握、救急救命士によるトリアージ等各活動は困難を極めました。さらに、傷病者の搬送手段及び収容医療機関の選定も大きな問題となりました。

塩見雅邦通信指令室長 通信指令室が全ての情報を集約して病院手配を行いました。当初の情報では5、6人の傷病者がいるとのことでしたが、さらに増えることが予想されたため、福知山市民病院の救急医に直接電話を掛けて、転院搬送前提で残る全ての傷病者受け入れの了解を得ました。多数の傷病者が搬送された福知山市民病院に集結していたDMAT（災害派遣医療チーム）の医師により、傷病者の程度別に転院搬送病院が選定され、綾部市消防本部（救急隊2隊）、豊岡市消防本部（救急隊2隊）、丹波市消防本部（救急隊1隊）、南但消防本部（救急隊2隊）、京都第一赤十字



福知山市消防本部・消防署・防災センター

